

第4回高松市総合計画審議会

日時：平成27年10月31日（土） 午後2時～

場所：市役所13階 大会議室

次 第

1 開会

2 議題

(1) 第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案に関する答申について

3 【事務局から総合戦略の報告】

4 会長から市長へ答申

5 市長挨拶

6 閉会

平成27年10月31日

高松市長 大西 秀人 殿

高松市総合計画審議会

会長 佃 昌道

第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案について（答申）

平成27年9月7日付け高政第66号をもって諮問を受けた第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案について、活発かつ精力的に審議を行った結果、おおむね妥当であると認め、別紙のとおり答申します。

答申（案）

高松市は、本格的な分権時代の到来や少子・高齢化の進展等、地方自治体を取り巻く環境の変化に対応し、健全で持続可能な行財政運営を推進するため、平成17年度に近隣6町と合併して10年が経過しました。そして、市内全域で、コミュニティを軸として個性をいかした魅力あるまちづくりが進められているところです。

一方、国においては、人口減少、少子・超高齢社会に対応し、東京圏への過度な人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保することにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持するため、まち・ひと・しごと創生法を制定したところであり、高松市においても、本年度、「たかまつ創生総合戦略」を策定しています。

今後、様々な社会環境の変化にも対応し、将来にわたって市民が地域に誇りを持ち、いきいきと暮らし続けることができる社会の実現に、市民や企業・NPOなどが行政と一体となって取り組んでいかななくてはなりません。

このような中、当審議会が諮問を受けた第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案は、高松市の将来展望を示す目指すべき都市像とまちづくりの目標を示すもので、様々な年代や産官学労言を始めとした分野の委員で構成された当審議会において、高松らしい取組を基本構想案に反映させて、総合計画の推進により活力ある市政運営が図られるよう、各委員の見識と経験を踏まえた意見を語り合い、熱い思いで精力的に審議を重ねてまいりました。

その結果、今回の基本構想案は、目指すべき都市像とそれを実現していくためのまちづくりの目標、具体的な政策、施策、取組方針が明らかにされており、市民誰もがわかりやすく、また、まちづくりの方向性がおおむね妥当であると認め、ここに答申するものです。

なお、審議の過程において提出された多くの意見、要望を基に、当審議会の総意として、次の点について、意見を付すことにより、総合計画の施策の推進に当たり、市民と行政が共に同じ目標に向かって取り組めるよう、これらの意見を十分に尊重されるよう強く要望します。

総括

高松市は、これまで瀬戸内海との深い関わりの中で発展し、文化芸術などの持つ創造性をいかした創造都市の推進により、訪れた人々との交流を活発に行ってきたところであるが、これからも、豊かな地域資源をいかして市民主体のまちづくりを推進するため、目指すべき都市像である「活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松」の実現を図られたい。

全ての市民が心豊かな生活を送ることができるよう、一人一人の多様性を尊重し受け入れる（ダイバーシティなど）という視点を大切にしたまちづくりを進められたい。

豊かな自然環境と、経済をけん引する都市機能をあわせ持つ高松市の特性をいかして、国際的な視野の下、人と物と情報が行き交い、新たな経済活動が生まれてくるようなまちづくりを進められたい。

瀬戸内国際芸術祭を始めとした国際的なイベントなどを通じて、国内及び国外の人との交流を大切に、市民が生活する地域に誇りと愛着が増すようなまちづくりを進められたい。

自然災害による被害を最小限にとどめるとともに、交通事故などの人為的な災害を未然に防止できるよう、市民が住みやすさを実感できるまちづくりを進められたい。

環瀬戸内海圏における高松市の拠点性を高めるだけでなく、常に広域的な視野を持ち、近隣自治体のけん引役としての役割が果たせるようなまちづくりを進められたい。

市民の積極的な関わりにより、各地域コミュニティの活性化が図られるよう、自治の基本理念に基づく市民主体のまちづくりを進められたい。

「たかまつ創生総合戦略の推進」、「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の形成」及び「多核連携型コンパクト・エコシティの推進」については、複合的、戦略的に、また、相互に連携を図るなど、積極的に取り組み、人口減少、少子・超高齢社会への対応を進められたい。

まちづくりの目標1 健やかにいきいきと暮らせるまち

- 1 まちづくり全般にわたり、子ども、高齢者、障がい者を始め、地域で暮らしている全ての人が、自分の力を主体的に発揮できる取組を進められたい。
- 2 これまで家庭や地域において行われてきた世代間交流について、時代に即した交流が実現できるような居場所を整備するとともに、そこに集う人と人をつなぐコーディネーターの育成に取り組まれたい。
- 3 誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合い、いきいきと暮らせる共生社会の実現に向けて情報収集し、新たな共生のモデルケースを実施し、その成功事例の情報発信や、更なる推進に取り組まれたい。

まちづくりの目標2 心豊かで未来を築く人を育むまち

- 1 男女共同参画社会形成のため、基本的人権としての男女平等の実現に向けた取組を着実に進めることはもとより、ワーク・ライフ・バランスの推進を通じて、女性の就業継続と参画の促進に取り組まれたい。
- 2 社会を生き抜く力を育む教育の充実においては、子どもの確かな学力の育成や教員の資質向上と教育体制の充実など学校教育の充実とともに、家庭及び地域における教育力の向上に取り組まれたい。
特に、地域コミュニティを中心とする子育てや教育を支えている活動は、一層推進されたい。
- 3 生涯学習の推進においては、学びたい意欲を持つ全ての人の希望に応えられる教育の充実とともに、地域で活躍してもらえる人材を育成するための再教育につなげる取組をしていただきたい。

まちづくりの目標3 産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち

- 1 海外から日本の食や文化への注目や期待が高まっていることから、国際的に通用する産品販路の構築及び拡大とともに、海外マーケットへの販路拡大に対して迅速かつ柔軟に対応することができる人材の育成に戦略的に取り組まれない。
- 2 文化や芸術に加え、女性の視点をいかしたものづくりなど、様々なものに対して複合的な視点を加えた独自性を高め、企業誘致を始め、市内企業の事業拡大支援、若い人でも起業しやすい環境づくりにより、働きやすい就業環境の整備に取り組まれない。
- 3 生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションなどを目的とした生涯スポーツや、スポーツ技術や記録の向上を目指した競技スポーツなど、スポーツの持つ多様な側面をいかした振興に取り組まれない。
- 4 訪日外国人旅行者は、増加の一途をたどっていることから、その受け入れ態勢を強化し、外国人観光客等の誘致を図られたい。
また、多種多様な観光戦略の中でも、開催地域を中心に大きな経済波及効果が期待できるMICE（マイス）の誘致に戦略的に取り組まれない。

まちづくりの目標4 安全で安心して暮らし続けられるまち

- 1 安全で安心して暮らせる社会環境を形成するため、救急車の適正利用、交通安全、防犯等についての啓発、国・県との災害時の連携と連絡体制について、実情に即した効果的な取組を進められたい。
- 2 環境と共生する持続可能な循環型社会を形成するため、市民の環境への関心を高め、発生抑制、再使用、再資源化による廃棄物の減量化や、今後、設備の技術向上が見込まれる再生可能エネルギーの更なる普及のほか、将来を見据えた取組を推進されたい。
- 3 豊かな暮らしを支える生活環境を向上させるため、国・県との役割分担を適切に行う中で、地域の実情を踏まえた防災施設、道路、公園等の社会基盤の整備を実施されたい。
また、安全な水道水の安定供給や、汚水処理人口普及率の向上に努められたい。

まちづくりの目標5 環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち

- 1 都市機能の集積と市街地の拡大抑制という理念に基づき、長期的な視点を持って、効果的な規制・誘導策を具体的に検討し、取組を進められたい。
また、瀬戸内海に面し、多様な地域資源を持つ島しょ部を有するという本市の特性を踏まえて、海上交通も含めた交通ネットワークを活用した地域の活性化を進められたい。
- 2 適正な土地利用の推進のため、持続可能なまちづくりという長期的なビジョンの下、土地利用の動向に対して具体的な方策を検討されたい。
また、市民に多核連携型コンパクト・エコシティの理念が広く浸透するよう、工夫をこらした効果的な周知・啓発に努められたい。
- 3 全ての市民が過度に自動車に依存しないライフスタイルを実現できるよう、公共交通機関の利便性向上を図るとともに、自転車や電動車いす等を主な移動手段としている人々も視野に入れて、まちづくりが展開できるよう、地域を始め交通事業者などの関係者の理解と協力を得て、将来を見据えた本市にふさわしい交通体系の構築について検討されたい。

まちづくりの目標6 市民と行政がともに力を発揮できるまち

- 1 地域コミュニティの充実が求められている中で、若い世代が地域コミュニティに積極的に参画できる体制づくりや地域コミュニティ協議会同士のネットワークづくりに取り組み、地域の活性化を図られたい。
- 2 市民主体のまちづくりが推進できるよう、市政に関する情報を共有し、市政へ市民が参画し、市民と行政の協働を深めるとともに、地域のリーダーとなる人材の発掘や育成に努められたい。
- 3 国内外の事例を参考にしながら、地域の特性をいかしたコミュニティとなるよう、戦略的かつ積極的に取り組まれたい。
また、成功した取組事例は、コミュニティ同士で相互の情報交換を行い、全てのコミュニティの活性化を図られたい。

- 4 まちづくりを複合的に考えるためには、戦略性及び政策連携を取り入れ、県及び近隣市町と連携し、圏域全体の生活関連機能サービスの向上を始め、経済成長や高次の都市機能の集積・強化に資する事業に取り組まれない。

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第3回高松市総合計画審議会
日 時	平成27年10月10日（土）18時30分～20時25分
開催場所	高松市役所 13階 大会議室
議 題	(1) 第6次高松市総合計画(仮称)基本構想答申(案)について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員 (19名)	佃会長、野田副会長、上田委員、上原委員、国見委員、 桑井委員、桑村委員、佐野委員、白薊委員、滝川委員、 竹内委員、徳倉委員、西岡委員、花澤委員、原委員、藤 本委員、古川委員、柳委員、頼富委員
傍 聴 者	1人 (定員10人)
担当課及び連絡先	政策課 839-2135

会議の経過及び結果

(1) 第6次高松市総合計画(仮称)基本構想答申(案)について

前回の議論の内容に基づき事務局が作成した答申(素案)について、委員にまちづくりの目標ごとにグループに分かれてもらい、前回の意見が反映されているかどうか、また表現について意見を出してもらい、グループごとに整理した。

(グループワーク)

【グループ1 まちづくりの目標1】

- ・1の「障がいを持った人」を「障がい者」へ修正して欲しい。それにより、全ての人主体的に取り組むまちづくりであるということを盛り込んでいただきたい。
- ・3を2へ入れ込んで欲しい。3の「今まであって今はない大切なもの」は「過去にはあったが今はないもの」と修正して欲しい。世代間交流を作るに当たり、場所のみを作るのではまちづくりの基礎をなさない。人と人をつなぐコーディネータを育成し、楽しんで力を発揮できる、良い共生ができるようにしていただきたい。
- ・3ではモデルケースを作り、情報発信をし、ネットワークを広げていただきたい。

【グループ2 まちづくりの目標2】

- ・1では「男女共同参画社会の形成」とあるが、これは「ダイバーシティ(多様性)の1つと位置づけ、「ダイバーシティ」という文言を用いて欲しい。
- ・2の「学校教育の充実」の中に「教育者の充実」を組み入れる必要がある。「地域コミュニティを中心に子育て・教育を支えており」とあ

会議の経過及び結果

るが、施策を講じても人口減少に対応できるエリアとできないエリアが出てくると考えられるので、コミュニティだけでなく「教育者の充実」が大切になってくる。

- ・ 3の生涯学習推進の対象を「学びたい意欲を持つ全ての人が」とした方が良い。

【グループ3 まちづくりの目標3】

- ・ 1について、一生を通して取り組むことができるスポーツ、それを通じた健康増進、地域社会の在り方はどうあるべきかという観点から、「生涯スポーツ」というキーワードを入れてほしい。「競技スポーツの他、生涯スポーツの在り方」というように変えてはどうか。
- ・ 2について、具体的な産業に結びつく国際化が必要である。波及効果を生むような組織的・戦略的な取組が重要である。
- ・ 3について、女性の視点を具体的に書込む必要がある。例えば、「文化・芸術と何かを結びつけるために、女性の視点・能力を役立てる」というような記述が欲しい。

【グループ4 まちづくりの目標4】

- ・ 1について、特に医療機関との連携体制の構築や突発的な災害に対応する連絡体制の構築という記載をお願いしたい。
- ・ 2は最近では太陽光発電のための農地転用が行われているが、将来を見据えた利用を考える必要がある。
- ・ 3について、いわゆる線引きが廃止されて以降、宅地化が進み農地が減少している。豊かな環境整備について考えていく必要がある。

【グループ5 まちづくりの目標5】

- ・ 2に「コンパクト・エコシティによる適正な土地利用の推進は、短期間では、なしえないことから」という文章があるが、矛盾的に受け取られる可能性があるので、「短期間では、なしえないことから」は削除し、具体的な施策を入れた方が良いのではないか。
- ・ 3の「公共交通機関と電動車いすなどの交通手段」に「自転車」も加えて欲しい。
- ・ 全体的として、「環瀬戸内海圏の中核都市」と銘打っているのに、海上交通を含めた島しょ部の利活用も入れて欲しい。

【グループ6 まちづくりの目標6】

- ・ 地域・地方の自立には若い人のコミュニティへの参加を増やすことが必要である。そのため、1に若い人が参加できる体制作りを加えて欲しい。その中でポイントとなるのは、コミュニティ同士のネットワーク力をもって高松市であるという一体感を醸成すること、明るくて活気のある対話ができる場であることが考えられる。
- ・ 1の成功事例、情報発信・共有を3にした方が良い。さらに、この部分を市が戦略的、積極的にやるという文言が欲しい。市がデザインしなければ都市部の活性化だけに偏る恐れがあるのではないか。

【その他】

(委員)

まちづくりの目標3の1について「高松の魅力のひとつに、海や山が多く自然が近いということがある。また、スポーツには・・・」と、いきなりスポーツが出てきている感じがある。また、読み手が困惑して

会議の経過及び結果

しまうので、豊かに暮らすためのレクリエーション、健康に暮らすための生涯スポーツ、競技スポーツと分けた方が良い。

(委員)

まちづくりの目標3について、新たに4番目として、「訪日外国人観光客の受入体制」を入れたほうが良い。

まちづくりの目標5の島しょ部の問題について、クルーズだけでなく島に上がってからの観光の充実を入れてほしい。

(委員)

5、6年前のデータで香川は他殺率の高さが全国3位であった。一方、北陸3県は最も低かったが、これは親子3世代が一緒に住み、きちんと教育しているからだという分析があった。高松は北陸のような血のつながりはなくても、地域の老人が若者を教えるといったまちづくりができる取組が必要である。

(委員)

まちづくりの目標5の3では「今後の超高齢社会に対応し」と始まっているが、高松市では商店街を盛り上げるという課題がある。商店街を活用する若い世代を念頭において、広い世代を対象とする表現の方が良い。車に代わる魅力をどのように作るかという点をポイントにしていくと良いのではないか。

「自動車に依存しないライフスタイルを実現」にかかるのは「公共交通機関」と「電動車いす」となるが、電動車いすは自動車の代替ではないため、公共交通機関、自転車と電動車いすは分けた方が良い。

(オブザーバー)

まちづくりを複合的に考えるためには、「戦略性」と「政策連携」を入れる必要がある。

【総括について】

(委員)

第2段落に「子ども、女性、若者、高齢者など」とあるが、「男性」を含めてはどうか。言い出すときりがないが、全ての人々という視点から考える必要がある。

(委員)

第2段落について、「それぞれの視点」は大事だが、今の状態ではそれぞれがばらばらに終わっている。

(委員)

第1段落の「合併による」という表現があるが、もうこのような表現は不要ではないか。

(委員)

個々の目標を複合的・戦略的にやっていくという文言をいれた方が良い。

ここでの取組は国際的にアピールできるという気概を持つこと、また外とのつながりをうまくやることで地域の人々の生活を充実させることにつながる。高松での生活や価値観は世界にアピールできるという意味を含めた「地域と国際」というキーワードを入れた方が良い。

会議の経過及び結果

(委員)

グローバル化とローカル化をうまくミックスさせた文章化が必要ではないか。

【答申案について】

(委員)

答申素案の「合併」の箇所については、過去の事実なのでこのままで良い。

(委員)

第1段落に「市内44」とあるが、なぜここにこだわっているのか教えて欲しい。

(事務局)

地域コミュニティが44あるという事実を表している。

(委員)

第5段落に「目指すべき将来像」とあるが、「都市像」の方が良いのではないか。

(事務局)

これは「都市像」が正しい表現である。

(委員)

人口減少、少子化、高齢化という言葉があまりにも使われすぎていて、ネガティブな印象がある。他に表現が無いか考えていただきたい。

(委員)

総合計画を読んだ市民や関係者に当事者意識を持ってもらいたい。活発な議論の中で出てきた意見を戦略的に実行していくというメッセージをどこかに表現できないか。

(委員)

市民の中には44が何か分からない方もいると思う。44にこだわるのであれば、44小学校区など何か分かるように表現した方が良い。

(委員)

第5段落に「持続可能な人口の維持と生活基盤の形成」とあるが、経済、産業、雇用の部分が見えづらい。

また、「市民・行政が一体となって」とあるが、企業、NPOなど協力し合うメンバーは他にもいるのではないか。

(委員)

第6段落に「高松らしい取組」とあるが、まちづくりの目標2の部分でも「高松らしい」が使われており漠然としている。具体的な言葉で示さないと伝わりづらいのではないか。

(2) その他

事務局から、今回の意見を踏まえ、適宜修正を行い、会長、副会長に確認後、次回審議会に、提示する旨、説明した。

(閉会)

第4回高松市総合計画審議会の流れ（予定）

日時：平成27年10月31日（土） 午後2時～

場所：市役所13階 大会議室

1 開会

2 議題

(1) 第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案に関する答申について

- ・ 答申案朗読
- ・ 答申案協議（最終確認）

3 【事務局から総合戦略の報告】

4 会長から市長へ答申

5 市長挨拶

6 閉会